

令和4年度茨城県農業総合センター流動研究員研究課題

園芸研究所 病虫研究室

1. 研究課題名

タバコカスミカメ等を用いたトマトのタバココナジラミ総合防除技術体系の確立(平成30～令和4年度)

2. 研究の背景及び目的

天敵タバコカスミカメ（以下、カスミカメ）は日本土着の広食性の捕食性天敵であり、コナジラミ類、アザミウマ類の有力な天敵として、関西以西の露地ナス、キュウリ等で盛んに活用されているが、これまでの研究では県内で土着のカスミカメは殆ど確認できない。

そこで本研究では、令和3年に農薬登録されたタバコカスミカメ製剤を用いて、本県のトマト栽培に適応したカスミカメの利活用法を検討する。さらに、これまでにコナジラミ類への防除効果が認められている技術とカスミカメを組合せた総合防除（IPM）体系を確立する。

3. 研究内容

1) 茨城県の抑制栽培トマトにおけるカスミカメを利用した IPM 体系の確立

カスミカメの定着を促進するアルテミア資材（餌ひも）、バンカー植物、紫色 LED、防虫ネット、カスミカメに対して影響の少ない登録農薬等を組合せた防除によるコナジラミ類に対する効果を検討し、IPM 体系を確立する。

- ① 天敵定着前に発生するコナジラミ類に対する防除法の検討と IPM 体系の実証（所内試験）
- ② 現地圃場でのカスミカメを利用した IPM 体系の実証（現地試験）

4. 研究期間

令和4年度

5. 試験研究の年次計画

細目課題	研究期間 (年度)	細目課題の試験内容
	R4	
1. タバコカスミカメ等を用いたトマトのタバココナジラミ総合防除技術体系の確立 1) 茨城県の抑制栽培トマトにおけるカスミカメを利用した IPM 体系の確立	○	・天敵定着前に発生するコナジラミ類に対する防除法の検討と IPM 体系の実証（所内試験） ・現地圃場でのカスミカメを利用した IPM 体系の実証

6. 必要とされる知識及び実験技能

- 1) 昆虫学及び応用昆虫学に関する知識と実験に関する技能。
- 2) 圃場スケールでの園芸作物栽培に関する技能。